

感動の触れ合い 素晴らしい笑顔

また来年



飯塚国際車いすテニス大会は17日、世界ランキング1位の国枝慎吾選手と上地結衣選手がそれぞれ貫禄のシングルス優勝を決めて閉幕した。
表彰式終了後、国枝選手と上地選手にはファンが次々と駆け寄り、サインや握手、記念撮影を求めた。あちこちから「おめでとう」と祝福され、2人は笑顔で応じていた。

国枝選手
上地選手
アベックVで閉幕



男子シングルスで連覇した国枝慎吾選手(中央)は記念写真やサインに応じていた

「世界」で活躍する国枝、上地両選手の効果もあり、6日間で延べ5千人超が観戦した(大会事務局)。それぞれでも約2千人のボランティアスタッフが大会を支えた。「また来年」と再会を誓い合っていた。

主役や裏方として汗を流した選手、観客、ボランティアスタッフに、大会への思いを聞いた。

主役や裏方として汗を流した選手、観客、ボランティアスタッフに、大会への思いを聞いた。

主役や裏方として汗を流した選手、観客、ボランティアスタッフに、大会への思いを聞いた。

主役や裏方として汗を流した選手、観客、ボランティアスタッフに、大会への思いを聞いた。



ボールパーソン九州工業大情報工学部3年、川棚湧貴さん(20)「今年3回目の参加でしたが、注目が集まる決勝はやっぱり緊張しました。選手を邪魔しないようにかなり集中しました。世界レベルの大会で役に立てる充実感は何物にも代えられません」